

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

June
ISSUE



June, 2026
Volume 168

ようこそ DIA へ

遅くなりましたが、新 1 年生と編転入学の保護者の皆様、ようこそ DIA へ！そして在学保護者の皆様、お子様のご進級誠にありがとうございます。

新たにご入学された皆様は、昨年度お子様の志望校選定や受験の準備、試験当日と、大変ご苦労があったことと拝察いたします。

中学・高校受験や大学受験と異なり、受験生ご本人よりも保護者様の意思が大きく関わってくるのがこの小学校受験です。お子様の人生に左右するものですから、志望校をお選びいただく際も教育内容・学校の雰囲気・在籍している子どもたちの様子・卒業後の進路・通学時間や経路など、様々な要素を熟考され、時には迷われたことでしょう。

そして晴れて DIA にご入学された皆様は、新しい生活が始まって 2 か月が経とうとしています。まずはお子様が「学校生活に慣れること」「宿題も含めて毎日の学習習慣を身に付けること」を目標に、日々を送っていただければと思います。

一方で、早くも来年度の入試に向けた広報活動が始まっています。今年度も私が主にその役割を担わせていただき、京都、大阪、奈良にある幼稚園、保育園、幼児教室にて学校説明会や教育講演会を行わせていただいております。

同様に編転入学をご希望の保護者様より、「学校見学をしたい」等のメールも頻繁に入るようになりました*1。一時帰国に合わせてその都度ご予約を取っていただき、個別に見学や説明を行わせていただいております。

幼稚園などでの説明会や講演会では、本校の特徴(国際バカロレア認定の探究カリキュラム、バイリンガル教育、一条校*2)について紹介させていただくとともに、同志社全体の教育理念、学校行事、卒業後の進学先、本校の魅力を余すところなくお伝えするよう努めております。また本校の求める児童像、ご家庭でのお子様との接し方、入試までに準備していただきたいことなど、話せることは何でもお話しさせていただきます。そして説明会終了後はお時間の許す限り個別

のご質問にも対応しています。

私自身、今までに国公立を問わず様々な小学校で勤務させていただきましたが、私から見て DIA は今までの学校とは大きく異なります。例えば、

- ・チャイムが鳴らない(タイムマネジメントは自分です、つまり自分のことは自分が責任をもつ)
 - ・子どもの名前はファーストネーム(下の名前)で呼び合う
 - ・服装、ファッションは自由*3
 - ・ディスカッションやプレゼン発表の授業が多い(もちろん座学もあります)
 - ・英語で話す教員の時間は英語のみで会話する
- …等、日常生活の中で日本のみならず海外の文化の中で過ごすことができることが本校の大きな特徴と言えます。そのような 6 年間は、今後国際社会で生きていく子どもたちにとって大きな意味のあることでしょう。

しかしながら、すべての私立学校に言えることですが、少子化の波は避けては通れません。それに加えて世界情勢の変化による物価の高騰など、私学を取り巻く環境はますます厳しいものとなっています。

DIA がこれからもますます発展していくよう、教職員はもとより、やがて本校が母校となる子どもたち、保護者の皆様が一丸となって学校を前に進めていくことが必須と考えます。

私自身も、保護者様や子どもたちに「DIA に通わせて(通って)よかった!」と感じていただけますよう、日々努めていきたいと考えております。

*1 編転入学をご希望の方の学校見学は、海外からの一時帰国の方のみ受け付けております。国内在住の方は5月・6月・1月に本校で開催する学校説明会においでください。

*2 「一条校」とは学校教育法第一条に定める小学校を指します。

*3 体育時の服装は制成品となります。その他学習活動時の安全を最優先に、身に付けてよいものを限定する場合があります。

教頭 風間 寛



キリスト教教育

6月：思いやり June：Compassion



『子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。
神の国はこのような者たちのものである。』

マルコによる福音書 10章 14節（聖書協会共同訳）

この原稿を書いているのは5月4日ですが、明日は5月5日、つまり「こどもの日」になります。日本でいう「こどもの日」は男子の健やかな成長を祈願する「端午の節句」に由来することが知られていますが、キリスト教の宗教行事としても「こどもの日」があることをご存じでしょうか。

キリスト教の宗教行事としての「こどもの日」は別名「花の日」とも言います。つまり、皆さん既にお馴染みの「花の日」と同日で、毎年6月に行われます。

「こどもの日」の始まりは19世紀で、アメリカのプロテスタント教会の牧師が、6月のとある日曜日に子ども中心の礼拝を行ったことがきっかけでした。その後、この季節に夏の花がたくさん咲くことから、礼拝堂に花をいっぱい飾る「花の日」礼拝としても定着しました。この二つが結びつき、「こどもの日」には礼拝で子ども達の成長を神に感謝し、礼拝後は飾られた花を手分けして、主に子ども達が病院や施設などに配って歩くようになりました。つまり、この日が子ども達に「神への感謝」と「人への奉仕」を学ばせる機会となったのです。

本校に勤務してから今年で12年目になりますが、宗教の担当者としてつくづく感じるのは、子ども達は本当に奉仕活動が好きなのだ、ということです。毎朝の礼拝では、私がチャペルで準備を始めるのを待ちかねたように当日の司会当番児童か、もしくは奏楽当番児童が現れ、自身の練習を始めます。そしていつしか、特に当番を決めたわけでもないのに自然発生的にできた「奉仕集団」が舞台脇に控え、場内の照明を付けたり消したり、礼拝掲示板を動かしたりしてくれています。これらの児童は毎朝、本当に楽しそうにチャペルにやってきますが、最初はただ遊びに来ているだけだと思っていました。ところが本物の当番児童が体調不良等で突然欠席になった時、必ずこの「奉仕集団」のうちの一人が代役を務めてくれるので、大変助かっています。

また初等部では創立当初から宗教行事としての「花の日礼拝」を行っていますが、当日は全校児童が満面の笑みでチャペルに色とりどりの花を運んでくれます。そして礼拝前から宗教委員の児童らは舞台前のテーブルに花を並べるのを手伝ってくれますし、聖書の会SGさんらが束にくださった花々を、昼休みや放課後に先生達にお渡しする仕事も率先してやってくれます。秋の「収穫感謝礼拝」では、これまた嬉しそうに一人1合分のお米をチャペルに運んでくれるのです。

『よく言うておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。』そして、子どもたちを抱き寄せ、手を置いて祝福された。（マルコによる福音書 10章 15-16節）

これは上掲の聖書箇所が続きますが、実はこれらの言葉の前に、イエス様に触れて頂こうと子ども達を連れて来た人々を弟子たちが叱った、という記述があります。なぜ叱ったのかは書かれていませんが、子どもの地位が今よりもずっと低かったこの時代（実際にアンモニア臭がしたり、鼻水が付いていたりしたことでしょう）、弟子たちなりにイエス様に気遣ったつもりだったのかも知れません。しかしながら「イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。…『神の国はこのような者たちのものである。』」（14節）

「子どもの権利条約」が国連総会において採択されたのは1989年11月20日のことでしたが、イエス様は実に2000年も前から子どもが一人の人格であることを認め、周囲の人々にもそのように教えておられたのです。

Christian Education Committee チャプレン石川眞弓

<お知らせ>

① 6月3日（水）花の日礼拝

日頃お世話になっている方々に花を贈ります。

お子様に花を一輪、お持たせください（大きな花束は必要ありません）。

② 6月9日（火）おにぎり献金

以下の施設を覚えて、献金を捧げます。

・国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）

・海外：日本ユニセフ協会「人道危機緊急募金」

（今後は国や地域を限定せず、世界各地で続く紛争の影響を受ける全ての子どもたちを覚えて献金を捧げます。）

賛同していただける方は、お子様に献金をお持たせください。

「G4 UNIT1 Where we are in place and time」

4年生一番初めのUNITは天気や天体など、身の回りの自然現象を扱うユニットです。このUNITのセントラルアイデアは、「人々は自分たちの周りを理解し生活する」です。子どもたちは太陽や月、星が見かけの上では私たちの周りを回っているのは知っていますが、どの方向からどんな形で見えるのか、また場所や季節によってどう変わるのかということはいまだにあまり知らないようです。このUNITではそんな日常の現象に焦点を当て、どうしてそうなるのだろうと疑問を立て解明していきます。そして最後にはまとめた知識を再構築してサマティブアセスメント（総括的評価）の課題に取り組みます。



課題は「あなたはグローバルツーリストの旅行会社の社員です。この度、光のない宇宙のある星から地球に観光客がやってきます。その宇宙人は自分の星では見たことがない月や太陽を見ることを楽しみにしているそうです。あなたはツアー会社の社員として地球から見える太陽や月、星の魅力を伝えるため魅力的な観光プランを計画してください。」というものです。太陽を見る観光ではキラキラ照りつけるお昼間が良いのか、海に沈む前の黄色に輝く夕焼けがいいのか、月の観光は夜中に見えるまん丸の満月か、それとも風情ある三日月か。ツアーを組むにはお天気の情報も重要ですし、どの季節が観光に向いているのかなども考える必要もあります。

このUNITでは小学校理科の4年生「天気と一日の気温」「月や星」、5年生「天気の変化」「台風」、6年生「月と太陽」の3学年にまたがる5つの単元を扱います。一般的には学年ごとに習う内容を1つのユニットで学びます。6年生の内容を4年生でまとめて習うなんてちょっと難しいようなイメージがありますが、子どもたちが5年生、6年生になった時に1年前に習った学習内容をもう一度思い出して、その上に情報を重ねていくというのは難しいのではないのでしょうか。このようにDIAの探究では理科や社会の単元を系統立てて計画し、効果的に学習するカリキュラムを組んでいます。また探究の時間だけに留まらず、にほんご（国語）の授業では、国語の単元「なりきって書こう」で、自分で撮影した月や雲の写真に、それらの気持ちになって書いた作文を合わせます。算数では晴れの日



と雨の日の気温を1時間ごとに測ってデータを比較します。「折れ線グラフ」の単元が4月末に計画されているのはこのためです。このような教科の枠をこえた学びは子どもたちの興味、問題意識をより強いものとし、学びが生活の中に浸透していきます。そうなってくると、子どもたちの日常にも探究の話題が見られるようになります。ニュース系の新聞には「好きな天体アンケートランキングコーナー」が生まれたり、家にあった月の満ち欠けの絵本を「面白い本なのでみんなにも読んでほしい。」と持ってくる子がいたり、「ゴールデンウィークに綺麗な夕焼けを見つけました。」と夕焼けの写真を撮って紹介してくれたり、キャンプに天体望遠鏡を持って行って、親子で上弦の月の写真を撮影したり...といった様子です。1つのUNITが終わる頃には体育祭や文化祭のような大きなイベントが終わってしまうかのような印象を子どもたちは持っているようです。また次のUNITの始まりには、新しい行事が始まるワクワク感を持って授業に臨む児童らも多いです。さて、宇宙人へのツアーガイド作成はまさに佳境に入りました。案内のパンフレットを作り、プレゼン動画を作成しと余念がありません。宇宙人が自分の星に帰国（星？）したときに、どんなお土産話をするのかに思いを馳せながら、子どもたちは目を輝かせてサマティブアセスメントに取り組んでいます。いつか皆様にその成果をご覧に入れる機会を持たりたいなと思っています。





Skills & Connections

Dear Parents,

This month, we are focusing on how learning connects across our entire curriculum through two core pillars: Approaches to Learning (ATL) skills and transdisciplinary learning.

1. Developing a Shared Language of Skills

Across all grade levels, we are continuously developing a shared language around ATL skills. These are the broad categories of thinking, social, research, and self-management skills that help students become independent learners. Rather than just focusing on *what* we learn, our goal is to help students become more aware of *how* they learn. As we explore these skill areas throughout the year, we encourage you to look for these themes in your child's daily reflections and growing classroom experiences.

2. Learning Without Borders

True inquiry is transdisciplinary, meaning it breaks down the walls between subjects. A critical part of our programme is ensuring that all subjects, including specialist classes like Art, Music, and PE, are not taught in isolation. Instead, they actively contribute to and enrich the Central Idea of our Units of Inquiry, allowing students to see the world as a connected whole.

How Parents Can Support

You can help reinforce these connections at home by asking questions that bridge homeroom and specialist learning:

"Which ATL skill (like communication or research) did you practice today?"

"How did what you did in Art, Music, or PE connect to your Unit of Inquiry?"

スキルとつながり

保護者の皆様

今月は、ATL (Approaches to Learning : 学習方法) スキルと教科横断的 (トランスディシプリナリー) な学びという 2 つの柱を通して、カリキュラム全体がどのように結びついているかに焦点を当てます。

1. 共通言語としてのスキルの育成

すべての学年において、私たちは ATL スキルに関する共通言語を継続的に育んでいます。これらは、児童が自立した学習者になるのを助ける、思考、社会性、リサーチ、自己管理スキルなどの幅広いカテゴリーを指します。単に「何を学ぶか」だけに焦点を当てるのではなく、児童たちが「どのように学ぶか」をより意識できるようになることが私たちの目標です。年間を通じてこれらのスキル分野を探究していく中で、お子様の日常の振り返りや、日々豊かになっていく教室での活動の中に、これらのテーマがどのように現れているかぜひご注目ください。

2. 境界のない学び

真の探究は教科横断的であり、科目間の壁を取り払うものです。私たちのプログラムにおいて重要なのは、図工、音楽、体育などの専門科目 (スペシャリスト) を含むすべての教科が、孤立して教えられないようにすることです。専門科目はバラバラに存在するのではなく、探究ユニットの「中心概念 (Central Idea)」に積極的に貢献し、それを深める役割を担っています。これにより、児童たちは世界を一つのつながったものとして捉えることができるようになります。

○保護者の皆様のサポート

ご家庭でも、担任のクラスと専門科目の学びをつなぐような問いかけをすることで、こうした結びつきを強めることができます。

- 「今日はどの ATL スキル (コミュニケーションやリサーチなど) を練習した？」
- 「図工、音楽、体育でやったことは、探究のユニットとどうつながっていた？」

敬具

Chris Elsdon



木々の緑がいよいよ深まり、湿り気を帯びた風に初夏の気配が感じられる季節となりました。新年度の始まりから二ヶ月。子どもたちの足取りは、4月のあの少し硬さを含んだものから、どこか地に足のついたものへと変わりつつあります。それぞれの教室に流れる空気もまた、張り詰めた緊張から、やわらかな日常へと移ろい始めています。

慣れの先にあるもの

この「慣れ」という現象は、一見すると安定のしるしのように見えます。しかし実のところ、子どもたちが新しい環境の中で自分の居場所や立ち位置を探り始めた、いわば「次の段階への入口」でもあります。緊張がほどけるといことは、同時に自分の思いや感情が外へとにじみ出てくるということでもあります。言葉が強くなったり、距離の取り方に戸惑ったり、思いがすれ違ったりする場面が見られるのも、決して偶然ではありません。

見えにくい変化の中で生まれるもの

さらにこの時期は、目には見えにくい疲れが静かに積み重なってくる頃でもあります。気温や湿度の上昇に伴う身体的な負荷に加え、「うまくやろう」としてきた日々の緊張が、少しずつ緩むことで表に出てきます。授業中の集中が途切れやすくなったり、些細な出来事に心が揺れたり、あるいは家に帰った途端、言葉数が減ったり、感情があふれたりすることもあるでしょう。表には大きく現れなくとも、子どもたちはそれぞれの場所で、自分なりに踏ん張りながら日々を過ごしています。

ここで私たち大人が心に留めておきたいのは、こうした姿を「乱れ」や「後退」として捉えるのではなく、「調整の過程」として見ていく視点です。張りつめていた糸が少し緩むとき、人は自分なりのちょうどよい張り具合を探そうとします。子どもたちもまた、その只中にいます。慣れてきたからこそ見えてくる揺れやほころびは、むしろその子が次の一步を踏み出そうとしている証でもあります。

同時に、この時期は「できていること」が見えにくくなりやすい時期でもあります。新年度当初の新鮮さが薄れることで、できるようになったことや続けている努力が、当たり前のもので埋もれてしまいがちです。しかし、毎日学校へ足を運び、友だちと関わり、時にはうまくいかない思いを抱えながらも一日を終えるという営みそのものが、土の中で静かに根を張るように、見えないところで確かに力を育んでいます。そうした静かな育ちに目を向けることが、子どもたちの自己肯定感を支える土台になっていきます。

言葉の奥にあるもの

ご家庭においては、この時期の子どもたちの変化に、少しだけ丁寧に目を向けていただけたらと思います。「学校どうだった？」という何気ない問いかけの中に、「今日はどんな一日を過ごしてきたのだろう？」という関心を込めていただくだけでも、子どもたちの受け止め方は大きく変わります。返ってくる言葉が短くても、断片的でも構いません。その言葉の奥にある気持ちに想像を巡らせ、「そうなんだね。」「それは少し疲れるよね。」と受け止めてもらえることが、子どもたちにとっては次の日へ向かう力になります。

また、学校でうまくいかなかった話や、友達や先生との関係の中でのつまづきが語られることもあるかもしれません。そのとき、すぐに正しさを示すのではなく、「どう感じたのか」「どうしたかったのか」に耳を傾けることが、子どもたち自身の内側にある力を引き出していきます。大人が先回りして整えてしまうのではなく、少し立ち止まり、考える時間を共にすること。その積み重ねが、自分で折り合いをつける力や、他者と関係を築いていく力へとつながっていきます。

学校においても、この「慣れの先にある揺れ」を前提に、子どもたちの姿を見つめています。学校全体を見渡す立場としても、この時期特有の心身の変化を踏まえながら、子どもたちが無理のないリズムで過ごせるよう、教育活動の在り方を整えていくことを大切にしています。落ち着いて見える日常の中にこそ、小さな変化やサインが潜んでいることを見逃さず、一人一人が安心して試行錯誤できる環境を整えていくことが、私たちの役割であると考えています。教室という枠を越え、学校全体で子どもたちのリズムを受け止めながら、時には立ち止まることも含めて、その歩みを支えていきたいと思えます。

5月から6月にかけては、外から見れば穏やかな日常が続いているように見える一方で、内側では確かに変化が進んでいる時期です。その静かな変化に目を向け、急がず、比べず、その子なりの歩幅を大切にしながら見守っていくことが、これからの成長の土台をより確かなものにしていきます。大きな変化だけでなく、小さな変化にも気づき続けること。その積み重ねが、子どもたちの安心と自信を育てていきます。



からのおしらせ

6月からのおすすめ本

スクールカウンセラーの先生よりセルフコンパッションやマインドフルネスの本を紹介していただきました。小学生でも読みやすい文字数でかわいいイラストもあり、読みやすい素敵な本がたくさんあります。春学期中の展示になりますのでLibraryに来たときはぜひ手に取ってみてください。

※一部、閲覧のみの本もあります。



いつもそこにはいたんだ
それにきづいて
うけとめて
たいせつにして-
そしたら
きみから
しあわせがうまれていく

「しあわせをさがしているきみに」
エヴァ・イーランド著
ほるぷ出版

6月の主な行事・予定

6月6日 G4 京都府私立小学校連合音楽会

1	月	Unit2(week2)
2	火	
3	水	花の日礼拝/Flower worship service G4 校外学習/Excursion
4	木	Swimming(G4/G5/G6) G3校外学習/Excursion
5	金	G6校外学習/Excursion
6	土	私小連音楽会(G4,午前中)/Kyoto private elementary schools concert (AM)
7	日	
8	月	Unit2(week3)
9	火	
10	水	G1 校外学習/Excursion
11	木	G5 中学校進学保護者説明会 / The explanatory MTG of recommendation system
12	金	第2回学校説明会/#2 Explanatory Meeting
13	土	
14	日	
15	月	Unit2(week4)
16	火	
17	水	
18	木	Swimming (G1/G2/G3)
19	金	G5校外学習/Excursion
20	土	
21	日	
22	月	Unit2(week5)
23	火	
24	水	教員研修のため午前授業(1~4 時間目)昼食後下校 /Teachers' PD day (AM lessons with lunch)
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	Buffer week ゲストティーチャー全学年/ Guest teacher
30	火	G4 参観・学期報告会 Open Classes/Trimester end report meeting, G6 推薦願作成説明会(Zoom) / Information session on how to write a recommendation application

7月の主な行事・予定

6/30(火) 参観・学期報告会
~7/8(水)
7/13(月) 学期末カンファレンス (希望者) (午前授業)
~7/15(水)
7/16(木) 午前授業
7/17(金) 終業礼拝 (午前授業)